

目次

はじめに——なぜ「みんな」の政治学なのか

第1章 変わりゆく世界、変わりゆく「みんな」の生活

グローバル化という現象／ヒトとモノとカネの世界規模の移動と加速化——「みんな」の日常が変わっていく／グローバル化の光と影／新型コロナウイルス危機とグローバル化／「みんなの政治」はどのような誕生したのか／国家総力戦——労働者の政治参加／総力戦後から生まれた世代／「われわれ」から「わたし」の世界へ

1

第2章 「みんな」の世代の政治意識を探る

「みんな」の世代の政治意識／激動したここ10年の社会・世界・政治／3・11の衝撃とSNS時代の到来——情報コミュニケーションの革新／SNSが政治を動かす——ネットが主導する社会運動／ネット右翼の盛衰／脱ネットウヨと新たな政治文化／脱保守的価値観の出現／リベラル化する政治動向とその限界／「れいわ新選組」の出現とネット選挙の諸相／情報コミュニケーションの進化とこれからの政治／政治の不在がもたらす歪み

37

第3章 誰を「みんな」とみなすのか——政治が躍動する原動力

政治の中の「みんな」とは誰か／日本国民とは誰のことか／リベリズムと民主主義の微妙なズレ／民主主義は「敵」をつくりだしてきた／「みんな」を「敵対」させるか、「同一化」させるかが政治／「ポピュリズム」と民主主義／現代ポピュリズムの多様性／現代ポピュリズムが問いかける民主主義の「危機」と「機会」／ナシヨナリズムの装置としてのオリンピック／「言語という超えがたい壁」が国民国家をつくる／国家という「想像の共同体」とメディア・言語／ナシヨナリズムの魔力を醸成する資本主義・メディア・言語／「一体化の幻想」という民主主義の条件／ナシヨナリズムを切り開いた「みんな」の時空間の制約とその先にある新たな政治

74

第4章 戦後世代の「みんな」による政治の展開——民主主義の危機と転機

いま、民主主義の危機の時代を迎えている／戦後日本の民主主義の危機——新たな転換点／民主主義に期待がもてないのはなぜか？／敗戦後——戦後民主主義はこうして成長していった——その生成過程とは／1950年代——戦後の空白期からはじまる戦後民主主義の実態／自由をめぐる「闘い」／1960年代——「民主か、独裁か」を賭けた闘い／安保闘争とナシヨナリズム／戦後日本の民主主義が育った過程／高度成長と国民の政治意識の変化／社会運動の生成と衰退／学生運動の生成と衰退／社会運動、労働運動の衰退と人々の意識変革／コミュニティ文化の解体がもたらす社会／東アジアの民主化とグローバル化の始動／1990年代——バブル崩壊と社会構造の変動／2000年代——新自由主義のもとでの格差構造／第二次安倍内閣はなぜ長期化したのか／強権的な第二次安倍政権の実態／「国民の同意に基づく支配」＝民主主義の基本を見失った政権／自民党の中央集権化と強権システムの確定と崩壊／支配の技法としてのアベノミクスと民主主義の崩壊／安倍政権の末期症状／民主主義を活かす——「変わらないためには、変わらなければならない」

107

第5章 「変わらない政治」を「みんな」で変えるには

——2021年総選挙からみえる限界と可能性

2021年総選挙が示した「変わらない政治」／2021年総選挙を分析する／日本政治の構造的危機とは／「変わらない自民党」と「変わらない政治」／野党の力量と総選挙／若者の政治意識の変化とアジアの政治動向／変わりゆく政治意識——「イデオロギー」からみえる力学／新たな社会集団が政治を変える原動力／「みんな」の政治はどこに向かうのか——分断と統合という2つの政治潮流のせめぎあいの中で

文献案内——本書で論じたことをもっと学びたいなら

注

あとがき

コラム目次

1	選挙制度	20
2	福祉国家	23
3	アイデンティティ・ポリティクス	35
4	自由	40
5	世論とメディア	48
6	保守とリベラル、左翼と右翼	52
7	レイシズム	57
8	ジェンダー平等	83
9	地方政治	102
10	利益団体	124
11	平等	131
12	日本国憲法	134
13	女性政治家はなぜ増えないか	153
14	政党	154